

審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	甲 第 1193 号	氏名	江口 洋幸
審査担当者	主 査	山川 良治	(印)
	副主査	中島 収	(印)
	副主査	神代 龍吉	(印)
主論文題目： Liver Dysfunction Associated with Intravenous Methylprednisolone Pulse Therapy in Patients with Graves' Orbitopathy (バセドウ病眼症患者での、ステロイドパルス療法に伴う肝機能障害の検討)			

審査結果の要旨 (意見)

2003年から2011年の間にパルス療法を施行した甲状腺眼症患者175例(男性57例、女性118例)を対象に、肝障害について後ろ向きに調査した論文である。単変量、多変量解析を行い、肝障害が年齢で50歳以上、ステロイド量8g以上、性別(男性)がステロイドパルス療法における肝障害の危険因子であることを見出した。また、肝炎ウイルス既感染者も肝障害を起こしやすいことが確認された。したがってパルス療法前にはこれらのリスクファクターの評価と肝機能のモニタリングの必要性が推奨される。特にこれらのリスクがある時にパルス療法を行わざるを得ない場合について討論がなされた。甲状腺眼症患者のパルス療法について有意義な論文と認められた。

論文要旨

経静脈的なメチルプレドニゾロンパルス療法は、中等症から重症の活動性の甲状腺眼症に対するファーストラインの治療である。しかしながら、メチルプレドニゾロンパルス療法中または治療後に、急性で重度な肝機能障害が指摘されている。今回の後ろ向き研究で、我々は、2003年から2011年の間に当院でメチルプレドニゾロンパルス療法を施行した175例の中等症～重症の甲状腺眼症患者を対象に、メチルプレドニゾロンパルス療法中や治療後の肝機能障害発症の危険因子を調査した。結果を示すが、7例でALTが300U/L以上の重度の肝機能障害がみられた。軽度(ALT40～100U/L)のALTの増加は、62例(35%)の患者に、中等度(100～300U/L)のALTの増加は、10例(6%)の患者でみられた。肝機能障害は、男性、高容量のメチルプレドニゾロン投与を受けた患者、50歳以上の患者に多く認められた。肝炎ウイルス既感染者(HBc抗体陽性の患者、またはHCV抗体陽性の患者)では65%と高率に肝機能障害がみられた。今回の研究で、メチルプレドニゾロン療法に伴って肝機能障害がみられることが追認された。したがって甲状腺眼症患者では、メチルプレドニゾロンパルス療法前に、肝炎ウイルスを含めて、危険因子の評価を行い、メチルプレドニゾロン投与中は毎週、その後1年間は毎月、肝機能のモニタリングを行うことが推奨される。